

新庄市議会 行政視察報告書

会派又は議員名 起新の会

【全体的事項】

1. 視察日程 平成27年 7月13日（月）～15日（水）
2. 調査事項（視察先）
 - （1）生活保護自立支援プログラム（釧路市）
 - （2）若年層の安定化を図る施策について（根室市）
 - （3）道の駅 摩周温泉（弟子屈町）
3. 視察参加議員（議席順）
石川正志 小嶋富弥 佐藤義一（代表）

【具体的事項】

調査事項（1）

生活保護自立支援プログラムについて（釧路市）

人口：177,286人 面積：1,363km²

（視察事項）

説明者：釧路市福祉部生活福祉事務所 所長補佐 三浦哲裕氏

- 自立支援事業に取り組むことになったきっかけ
生活保護受給母子世帯自立支援モデル事業
- 釧路市生活保護自立支援プログラム全体概況
自立支援プログラム推進事業一覧
- これからの生活困窮者支援について
生活困窮者自立支援事業

■視察日時 平成27年 7月13日（月）
午後 3時30分 ～ 5時00分

■所 感

「自尊感情の回復」を大きな柱に添え平成16年から26年度まで生活保護自立支

援事業を展開してきた釧路市を訪ね、視察を行いました。新庄市においても、稼働年齢でありながら生活保護受給者となってしまう割合が21%と大きく年々増加傾向にあります。今年4月から生活困窮者自立支援法が施行されているので、この度は、ここの部分に焦点を当ててみたいと思います。

釧路市において平成15年当時、生活保護の母子世帯の割合は20%を超え、深刻な状況にありました。介護保険法の改正に伴い、ヘルパーが訪問介護の際、同行訪問という形で、関係機関と連携を取りながら彼女たちに就労の機会を与えたのです。子供は無料の一時保育にして安心して就労できる環境も提供し、26名の方が自立する事ができたと伺いました。内、18名の方が介護の資格を取り現在に至っています「生活保護受給母子世帯自立支援モデル事業」。

釧路市生活保護自立支援プログラム（平成27年4月）の全体に触れてみます。大きく分けると就労自立に至るまで4段階あります。日常生活自立のための日常生活意欲向上支援プログラム、社会生活自立のための就業体験的ボランティア事業プログラム、就業体験プログラム、そして就労支援プログラムです。就労支援プログラムは、ハローワークと連携した就労自立促進事業や職業訓練機関を活用した生業扶助活用資格取得プログラムの他、民間事業者から協力を頂くインターンシップ事業が特徴となっており、平成26年度では、延べ参加者が7,537名中およそ10%の76名が自立できた成果がありました。生活福祉事務所の組織機構及び職員の配置に関して、高齢者世帯など慢性的な主幹はケースワーカーが一人当たり約6.5世帯をカバーしているのに対し、自立支援担当は17件と重点的に職員が配置されていました。

活困窮者自立支援事業に関して、早期発見の観点から、例えば納税の遅れ、公共料金の未納など庁内関係各課と連携した生活困窮者庁内連携連絡会議を設置しています。これからは自立支援プログラムで培ったノウハウを活かし、就労意欲向上から就労までを生活困窮者をそれぞれの段階に応じて一元的・継続的に支援していくとの事でした。

冒頭申し上げましたが、「自尊感情の回復」あるいは貧困の連鎖防止の観点から、学習支援の重要性に特に気付かせられました。平成15年当時、母子世帯に生活保護を受けている世帯と受けていない世帯それぞれ200件のアンケート調査の結果、生活保護を受けている世帯の方は、学歴が中卒あるいは高校中退であるのに対し、受けていない方は、高卒、短大・4大卒でした。また、相談できる友人の数も、前者は0～1名に対し、後者は4～5名でした。今後、新庄市の福祉行政を議論していく上で今回、学んだ点を十分活かしていきたいと思います。



調査事項（２）

若年層の安定化を図る施策について（根室市）

人口： 27,822人 面積：506,25km²

（視察事項）

説明者：根室市水産経済部商工観光課長 飯島拓也氏

○若年層の安定化を図る施策について

1. 若年者等雇用促進支援事業
2. ホームヘルパー２級養成講座の実施
3. 新規学卒者地元就職推進
4. 根室なでしこ応援事業

■視察日時 平成27年 7月14日（火）
午後 1時30分 ～ 4時30分

■所 感

新庄市においては、少子化対策あるいは定住促進の観点から、子育て世代への支援の施策については、重点的に予算を充当しています。根室市では、若年者を満35歳以下、既卒3年以内の未就職者、Uターン・Iターン（何れも1年以上の就職経歴が必要）と定義し、雇用促進と地元定着をねらいとした様々な施策がとられていました。

例えば、雇用促進支援事業は、若年者に対する情報の取集提供、ハローワークと連携した求人求職間調整、更には、雇用主・雇用された若年者に対する現金給付などです。また、介護職員初任者研修として、資格取得に係る保護者負担を軽減するため自己負担の上限を定め、残りは行政が負担しているとの事でした。平成21年度から開始されていますが、最近では他職の求人状況が改善してきているため、介護職は敬遠されている様でした。高校生の地元定着を図るための取り組みとして、①企業への求人要請②企業訪問の実施③産業（企業）説明会の実施などがあげられています。新庄市においても高規格道路の進捗に伴い、工業団地等への企業誘致が進んでいますが、雇用にはミスマッチが存在しているのが実情であると思います。こうした問題の解決に向けて、私達議会も執行部と議論していく必要性を感じました。

なでしこ応援事業に関しては、女性の力を活かし労働力減少問題に取り組み、地域経済の活性化を図ることを目的とした事業と伺いましたが、始まったばかりの事業でしたので、効果等は検証できませんでした。

余談になりますが、漁業を含む水産加工業が基幹産業となっている根室市において、



先ごろ報道されたロシアによるサケ・マス流し網漁の規制強化は、私達の想像をはるかに超えるものでした。根室市だけでも経済ベースで200億円と想定されており、死活問題になる事は必至です。同じ一次産業を基幹産業にしている新庄市に暮らす私達も、他人事として捉えるのではなく、北方領土返還などを含め、身近な問題として考えなくてはならないと再認識させられました。

調査事項（3）

日本最東端の道の駅（弟子屈町）

人口： 7,824人 面積： 774,33km²

（視察事項）

○道の駅 摩周温泉の概要

■視察日時 平成27年 7月15日（水）
 午前10時00分 ～ 11時30分

■所 感

弟子屈町の自然や観光等の地域情報発信する交流ゾーンと地元で生産された野菜やお土産などを販売する物販ゾーンに分けられた総合的な施設になっています。交流ゾーンでは元気なスタッフが観光案内や宿泊施設・体験プログラムの紹介をしてくれています。無料で利用できるパソコンコーナーが有り、また、物販コーナーでは摩周や近郊エリアの特産物を豊富に揃えていました。テイクアウトグルメも提供されており、合わせて、敷地内には足湯も備えており、町民や観光客の憩いの場としても利用されていました。24時間対応の清潔で明るいトイレも自慢のひとつだそうです。

周辺市町村は、釧路市、茶別町、津別町、美幌町、小清水町、清里町、中標津町などで、観光有名スポットとして摩周湖、硫黄山、屈斜路湖などがあるため平日にかかわらず多くの人々が利用していました。

釧路市、根室市の議会事務局の職員の皆様、説明頂いた担当課の職員の皆様にあらためて感謝いたします。

（文責 石川正志）